

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立西戸山小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	児童理解を深め、学級経営や専科経営を充実させ、温かな人間関係の中で、目標、内容、活動を明確にした授業や語彙力・表現力等の基礎的言語能力を大成することにより、基礎的・基本的内容の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図る。
環境作り		時間や場所の制約に対してICT機器の活用や、効率化を図り、先行研究に触れながら実践研究を行い指導力の向上に努める。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢や声の出し方、話の聞き方、学習の約束などを身に付けるようにする。 ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読めるようにする。 ・ 長音や拗音、促音、撥音などの表記、助詞、句読点、鍵括弧などの使い方を理解できるようにする。 ・ 自分なりの思いや考えをもち、それを表現できるようにする。 ・ 算数の基礎・基本を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 話型や学習の約束を掲示する。 ▶ 音読や読書の時間を確保し、多様な文章に触れさせる。 ▶ 日々の授業で繰り返し正しい使い方をおさえる。ノートやワークシートの表記を丁寧に確認する。 ▶ スピーチや対話の機会を設定する。 ▶ 具体物、半具体物を使用させる。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に活動に参加し、話題について自分の考えや立場をもつことができるようにする。 ・ 自分の考えに根拠をもち、筋道を立てて表現できるようにする。 ・ 国語科においては「受け答えをする」「事実を正確に伝える」「情報を分析する」などの技能を伸ばすために、言葉の正しい使い方の指導を図る。 ・ 算数科においては、言葉や数、式、図、表などを用いて、筋道立てて考える児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 児童に身近な話題や問題意識から授業作りを行う。 ▶ 自分の体験や既習事項を根拠にして考えさせる。 ▶ 対話を重視した言語活動を行う。児童の意見を価値付けながら、建設的に物事を決められるような話の手順を指導する。 ▶ 説明や理由・手順の説明の仕方を授業の中で指導する。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を正しく読み取るために、配当漢字や、言語に関する知識の定着を図る必要がある。 ・ 自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える能力の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の意味を理解しながら、書かれていることを正しく読み取れるようにする。 ・ 自分の考えや意見をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 図書の時間や朝学習の時間を活用し読書量を確保する。また、デジタルドリルを活用する。 ▶ 発問を工夫したり、例示やモデルを示したりしながら、自分の考えを言語化し、交流する機会を増やす。

	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返り下がりのあるひき算の筆算など、計算の仕組みを十分に理解する必要がある。 ・具体的な場面を式に表す点で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく計算処理できる技能を身に付けさせる。 ・問題場面を正しく把握し、図や式で的確に表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 基礎的な計算問題に日々取り組ませる。習熟度別学習の単元計画を工夫し、練習問題の時間を多く確保する。 ▶ 文章題から立式する学習を意図的に取り入れるようにする。場面を図に表し、よい表現を授業の中で価値付けながら、演算決定につなげる。
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を把握するために、基礎的言語の習得と、漢字学習の定着を図る必要がある。 ・自分の考えや意見をもてるようにする必要がある。 ・図形の基礎・基本の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的言語の習得のために、辞書引きを徹底する。また、家庭学習と連携しながら、漢字学習の定着を図る。 ・自分の意見や考えを分かりやすい文章で伝えるための工夫を身に付けられるようにする。 ・条件に合った図形をかけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 音読の宿題や読み聞かせを行うことで読書量を増やす。朝学習や国語の時間に、毎日10分程度漢字学習を行う。またデジタルドリルを活用し、漢字の復習を家庭学習で行う。 ▶ 自分の考えや意見を言語化するために毎日日記のやりとりをする。 ▶ 図形単元では、実物投影機能やデジタルドリルを活用する。作図の仕方を相互に確認、あらゆる学習道具で作図できるようにする。
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を正確に読み取るために、より多くの語彙を獲得することが必要である。 ・文章の内容を正確に捉えることが必要である。 ・計算技能を定着させることが必要である。 ・思考・判断・表現力を育てることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な語彙の獲得を目指す。 ・言葉にこだわり、言葉を大切にしながら読解力を高める。 ・基礎学力の定着を図る。 ・既習事項を活用しながら問題解決を図れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 辞書の活用を推進する。また、語句の意味調べや、その言葉を使った文章を作るなど、言葉の定着を図る。 ▶ 音読に力を入れる。叙述に即して丁寧に読み解く。辞書の活用を進める。 ▶ デジタルドリル、計算ドリル、ノートやプリント学習を通して、基礎的な計算練習に日々取り組ませる。 ▶ 導入を工夫し、課題を的確に把握させる。自力解決の時間を長めに確保する。図・式・言葉で説明活動をさせ、練り上げを丁寧に扱う。
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報や伝えたい内容をもとに表現する力を養う必要がある。 ・筋道を立てて文章を書く力の向上が必要である。 ・算数では記述問題への回答を苦手としている。文や言葉で的確に表現する力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読解力を育てるため、登場人物の言動や情景描写から作品の内容を読み取る力を身に着けさせる。 ・相手意識をもって正しく文章を書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 他の人に分かるように、表現する場を多く与えるなどの指導（グループ発表など）を取り入れる。 ▶ 語彙力向上のための取組 <ul style="list-style-type: none"> ①読書活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書活動 読書記録の活用 ②日直のスピーチ活動 <ul style="list-style-type: none"> 毎日のひとこと日記 ③毎日の活動を言語化し掲示

	<p>・算数の基本的な問題を確実に定着させるために未回答の児童への指導が必要である。</p>	<p>・基本的な技能を定着させる。 ・問題文を正しく把握し、図や式、言葉で的確に表現できるようにする。</p>	<p>④デジタルドリルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 文字数を指定したりして要約する経験を積ませる。 ▶ 個の課題に応じて分量や内容を変えた家庭学習を工夫する。 ▶ デジタルドリルや教科書「ふりかえろう」を活用し、既習事項を繰り返し指導する。
--	--	--	---